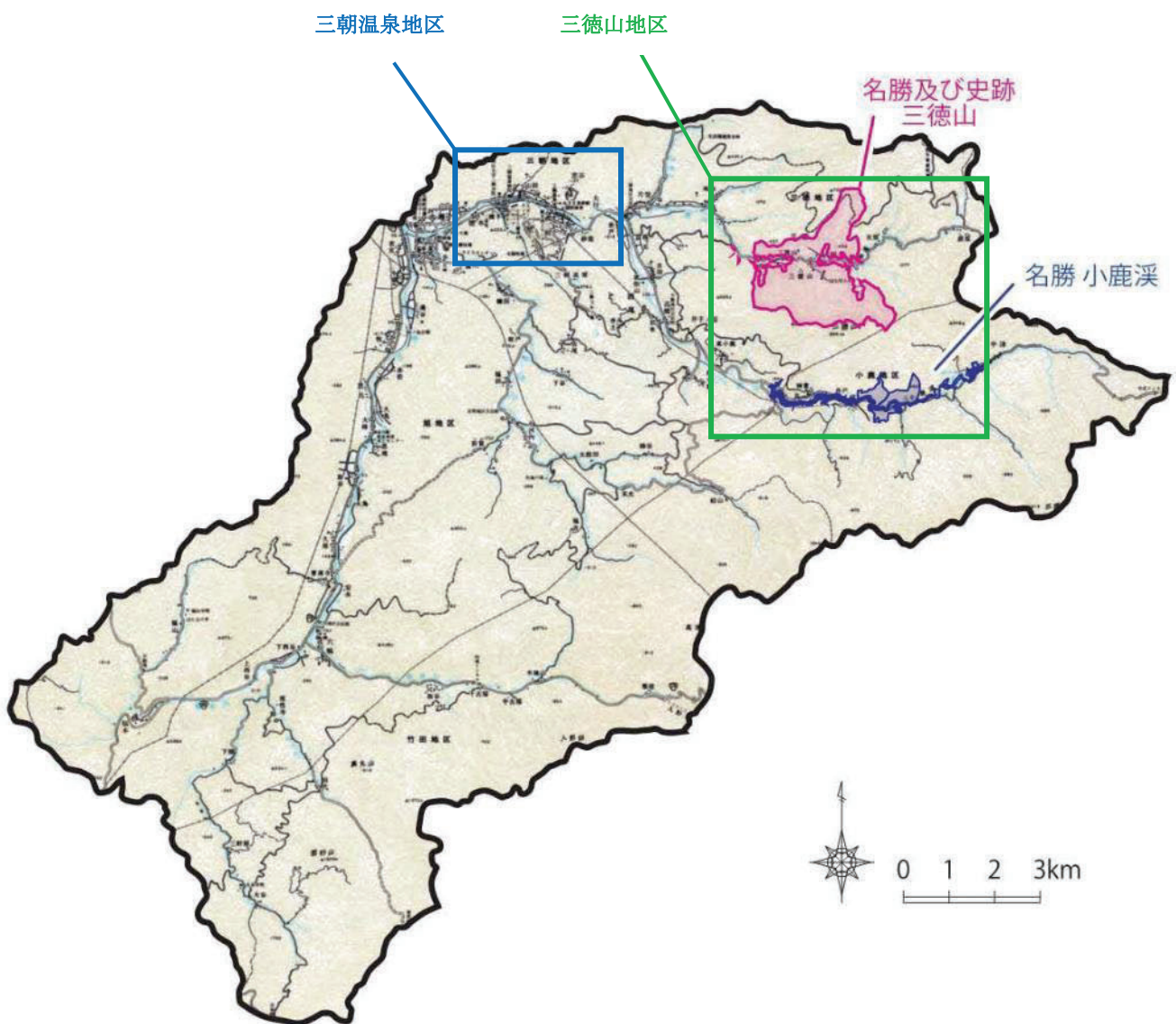
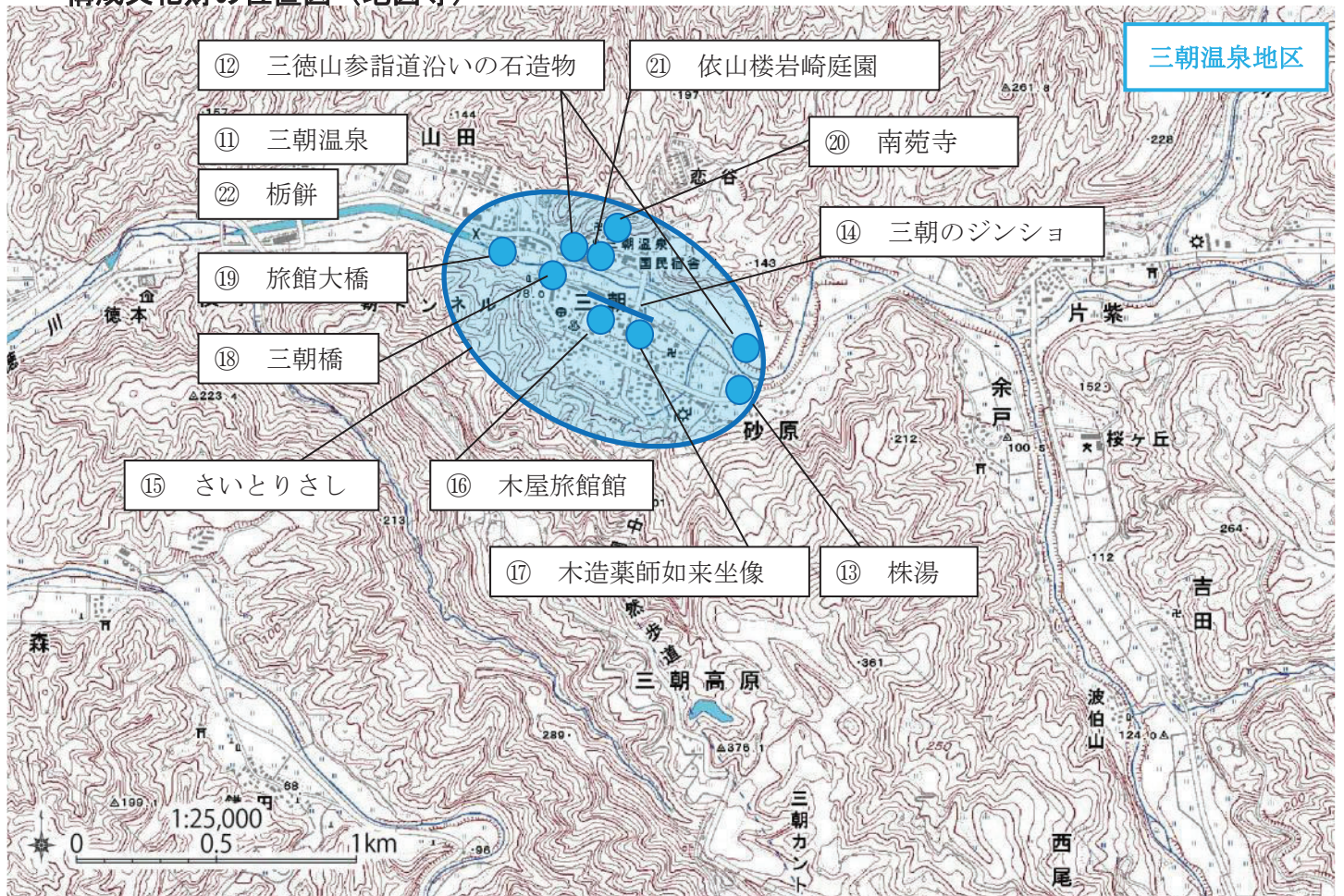


① 申請者	鳥取県 三朝町	② タイプ	<input checked="" type="checkbox"/> 地域型 / シリアル型 A B C D <input checked="" type="checkbox"/> E	
③ タイトル				
(ふりがな)	ろっこんしょうじょうとろっかんちゆのち ～にほんいちあぶないこくほうかんしょうとせかいくっしのらどんせん～			
六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～				
④ ストーリーの概要（200字程度）				
<p>三徳山<small>みとくさん</small>は、山岳修験の場としての急峻な地形と神仏習合の特異の意匠・構造を持つ建築とが織りなす独特の景観を有しており、その人を寄せ付けぬ<small>おごそ</small>厳かさは1300年にわたって畏怖の念を持って守られ続けている。</p> <p>参拝の前に心身を清める場所として三徳山参詣の拠点を担当した「三朝温泉<small>みさきおんせん</small>」は、三徳山参詣の折に白狼により示されたとの伝説が残り、温泉発見から850年を経て、なお、三徳山信仰と深くつながっている。</p> <p>今日、三徳山参詣は、断崖絶壁での参拝により「六根<small>ろっこん</small>（眼、耳、鼻、舌、身、意）」を清め、湯治により「六感<small>ろっかん</small>（観、聴、香、味、触、心）」を癒すという、ユニークな世界を具現化している。</p>				
⑤ 担当者連絡先				
担当者氏名				
電 話				
E-mail				
住 所				

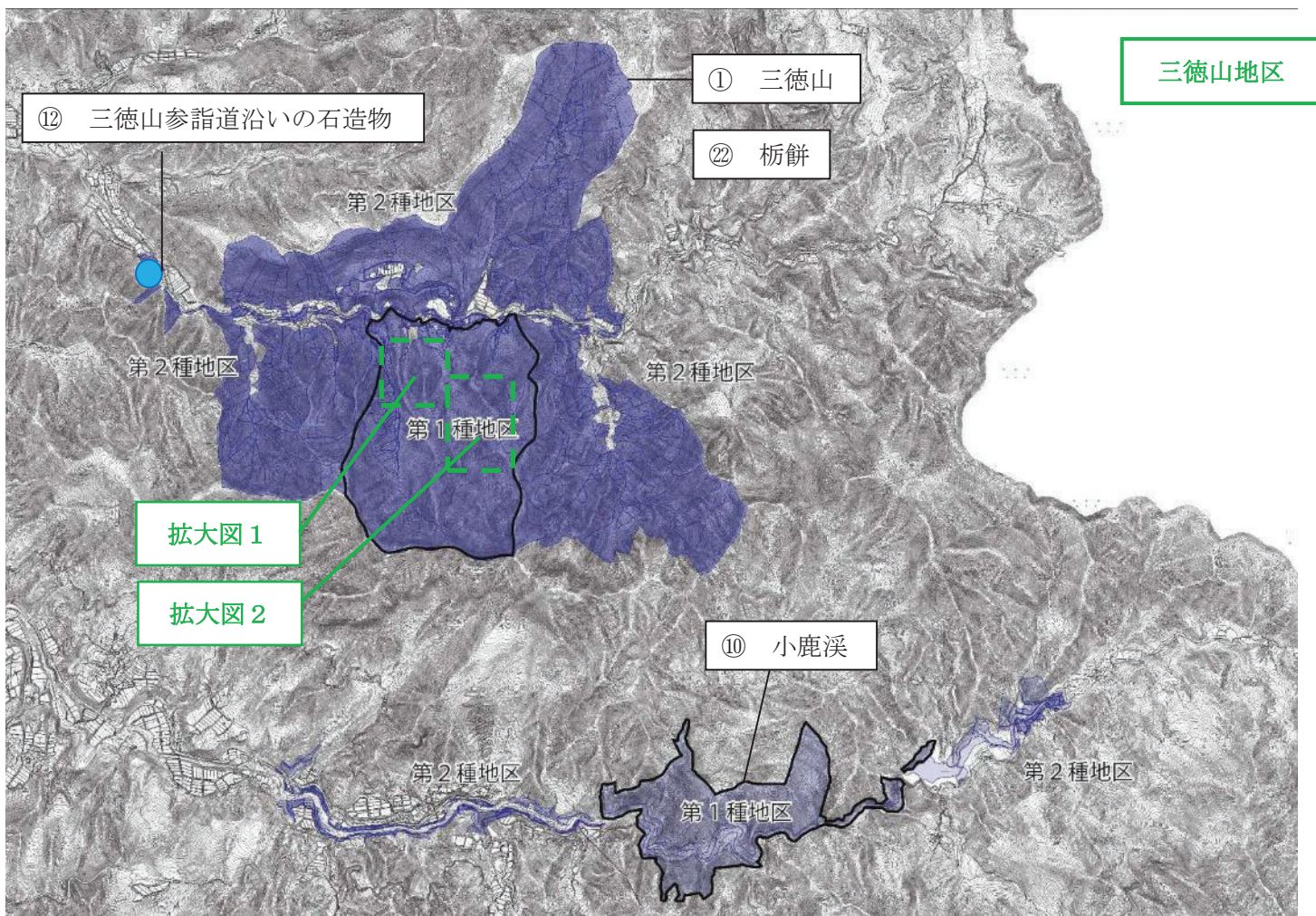
市町村の位置図 (地図等)



構成文化財の位置図 (地図等)

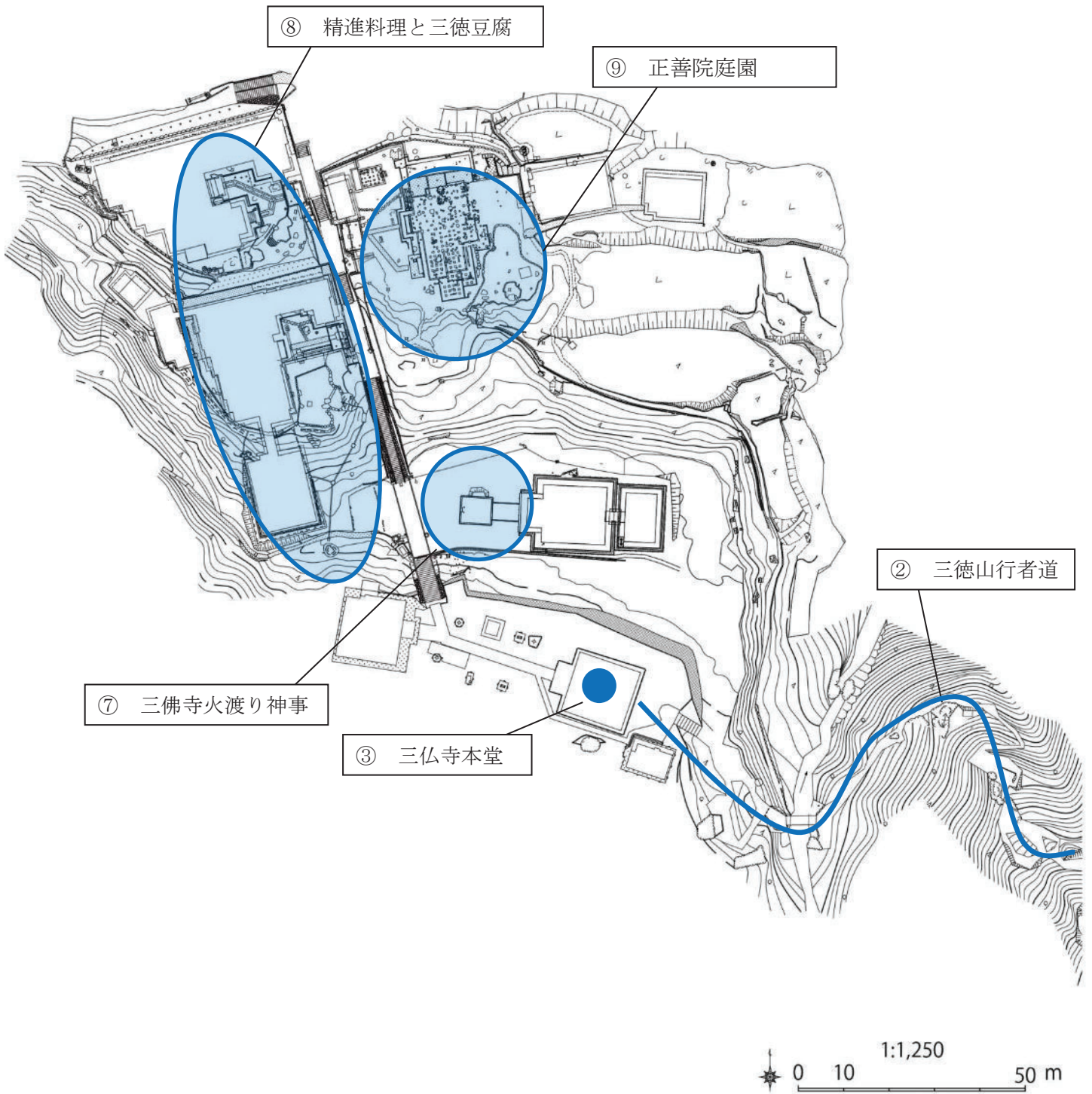


三朝温泉地区

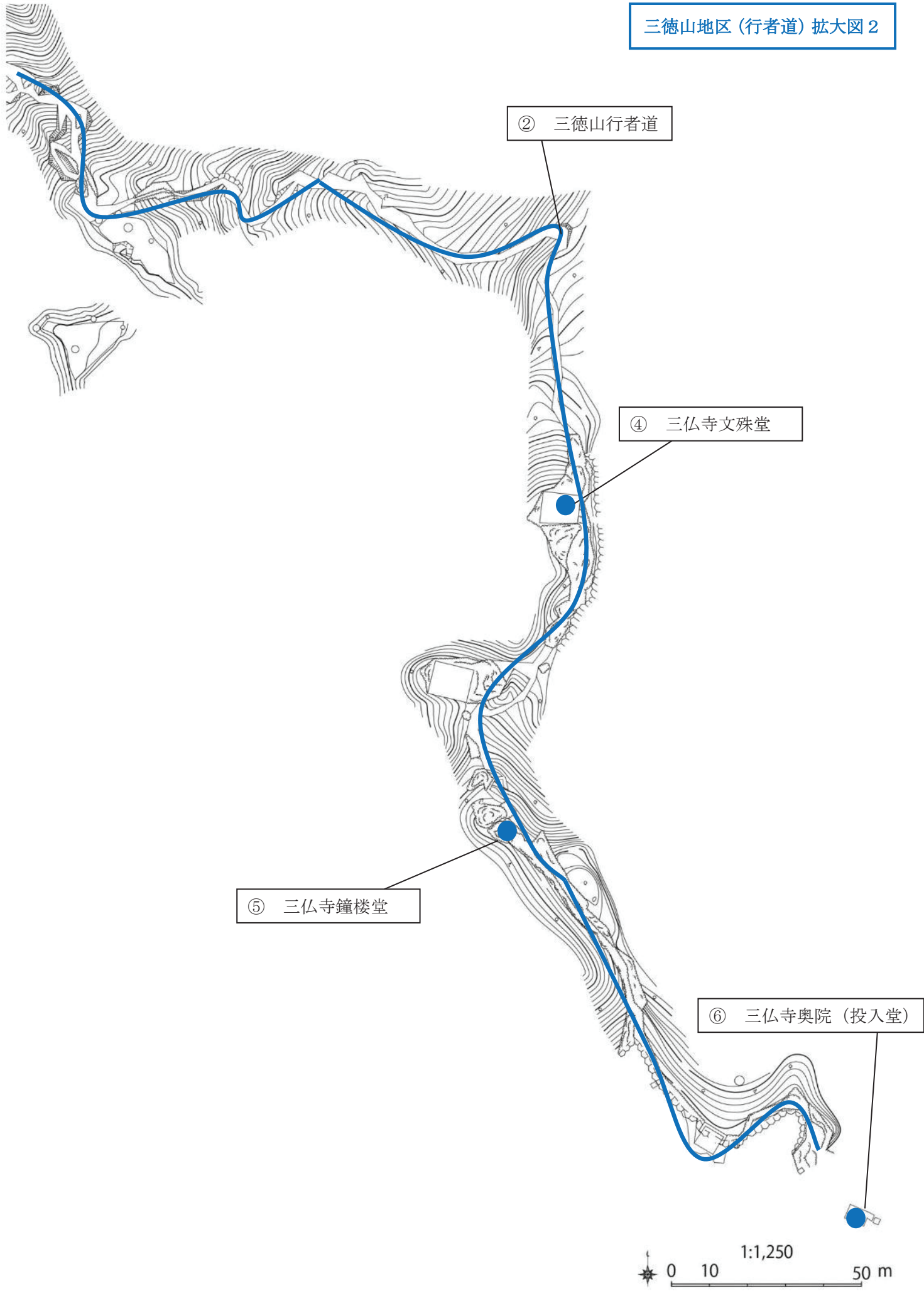


三徳山地区

三徳山地区 (行者道) 拡大図 1



三徳山地区 (行者道) 拡大図 2



ストーリー

神話のふるさと因幡国、出雲国と隣り合う伯耆国に修験道の聖地三徳山が誕生する。この誕生は、修験道の開祖 役小角が「神仏のゆかりのあるところへ落としてください。」と三枚の蓮の花びらを空に投げ上げると、そのうちの一枚が伯耆国三徳山へ舞い降り、この地に修験道の行場が開かれたという、「蓮の花びら伝説」として現在も語り継がれている。その後、三徳山は慈覚大師が山下に堂宇を建立し、「釈迦如来」「阿弥陀如来」・「大日如来」の三尊を安置した三佛寺によって天台密教の道場として隆盛を極めることとなる。

修験道の聖地三徳山への道は、大きく3つに分かれる。東は因幡から、南は美作から、西の出雲からの道である。それぞれの道程には温泉があり、三徳山と温泉は密接な関係を窺うことができる。とりわけ、出雲からの道は三朝温泉を経由し三徳山に入山する道で、歴史的にも最もよく使われた参詣道である。

三朝温泉に残る「白狼伝説」によると、源義朝の家来大久保左馬之祐が、主家再興の祈願のため三徳山に参る道中、楠の根元で年老いた白い狼を見つけた。「お参りの道中に殺生はいけない」と見逃してやったところ、妙見菩薩が夢枕に立ち、白狼を助けた礼に、「かの根株の下からは湯が湧き出ている。その湯で人々の病苦を救うように」と源泉のありかを告げたという。こうして「万病を癒やす湯」として、「株湯」が現代に伝わる。

しかしある時、株湯に祀られていた神様を誤って湯の中に落としたため、「一たび湯に入れば、大熱を発し、または気絶する者が後を絶たなくなり、悪霊がいる崇りの湯」と恐れられたこともあるが、その悪霊を三徳山にて鎮め、木像の胸中に納めて薬師如来を三朝温泉の守護仏として祀った。その後は「癒やしの湯」として、湯治に来る人々が後を絶たなくなったという。三徳山との強い結びつきを示す話である。

三徳山では眼・耳・鼻・舌・身・意を清める「六根清浄」は、まず、三朝温泉の湯に入り、身を清め、癒し、心を整え、山へ向かう準備を行い、翌朝、三徳山へ入る。その道中、随所に地藏菩薩が祀られ、また、辻堂に観音菩薩が祀られ、お参りしつつ三徳山へと向かうことから始まる。

かつての三徳山は北面を北座と呼び、南面を南座と呼んでいた。北座では寺院、僧坊が山内に配され、寺院では仏像、写経、読経、座禅、精進料理などで、己の欲や迷いを断ち切り、心身を清める六根清浄を深めていた。さらに修験道のそれは、深山にわけ入り、洞窟、岩屋で寝食し修行を行っていた。

今日でも、こうした修験道的一端を「行者道」に垣間見ることができる。行者道は「宿

ストーリー

いばし
入橋」から始まり、千数百年変わらぬカズラ坂やブナ林の「願掛けの石段」、「馬の背・牛の背」を這いつくばって登り、「文殊堂」、「地藏堂」など多くの行場を経た後に、突如として眼前に断崖絶壁の岩窟に建つ「国宝投入堂」が現る。

この行者道は、かつての行場を経ることで人と自然界との一体感を強く感じ、自然の力を享受する道として今も残る。

一方、三徳山南座は、現在では地元の人でも殆ど訪れない場所であるが、石造物群や行者の墓地とみられる場所など、かつて隆盛を極めた修験道の行場が各所に残っており、三徳山全山が修験道の聖地であったことを物語っている。

先人の行者によって形作られた修験道の聖地において、行を重ね、六根清浄を終えて山を下り、三朝温泉の湯を飲み、浸かり、湯煙に身を置き、再び自然の恵み、自然の力を全身に授かることで、六感を癒す。これをいわゆる、六感治癒と言っている。この「六感治癒」を今に伝える話として、ある人が、目が見えるようになるよう願いを込め、来る日も来る日も行者道に石段を積む行を行い、湯に浸かり身を清めたところ、ある朝、朝日とともに三尊仏が出現し、願がかなえられたという、「願掛けの石段」の物語がある。また、三徳山周辺から切り出した大藤カヅラで行う「三朝の大綱引きジンショ」や、清流三徳川でのカジカの鳴き声や川湯から立ち登る湯煙など、心を癒やす情景の中で六感治癒を果たすことができる。

このように三徳山で「六根」を清め、三朝温泉で「六感」を癒す一連の作法は「人と自然が融合する日本独自の自然観」を特徴的に示したものであり、心と体を洗うことで、誰もが持つ清らかさが蘇る地として、ありつづけている。



国宝 投入堂



三朝温泉

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	みとくさん 三徳山	名勝及び史跡 (記念物)	「六根清浄」のストーリーの核となる空間。山岳修験の霊場であり、急峻な地形と独特の意匠及び構造を持つ建築とが織りなす独特の景観を有する。	
②	みとくさんぎょうじゃどう 三徳山行者道	名勝及び史跡 地内 (記念物)	「眼・耳・鼻・舌・身・意＝(六根)」の感覚全てを研ぎ澄まし、命を懸けて山中に鎮座する「国宝投入堂」を目指す「六根清浄」の全てを清める修行の道。	
③	さんぶつじ 三仏寺本堂	県有形 (有形)	行者道の起点にあたり、「六根清浄」の「鼻」にあたる。出発前に備える線香と修験道では、「神木」とされる石楠花の芳香に包まれ、国宝投入堂への参拝が始まる。	
④	三仏寺文殊堂	重文 (有形)	「六根清浄」の「身」を代表する場所で、行者道の難所「クサリ坂」にあたる行場。登坂後に文殊堂から望む日本海、大山の雄々しき姿は参拝者の心を徐々に清らかにする。	
⑤	さんぶつ しょうろうどう 三仏寺鐘楼堂	県有形 (有形)	「六根清浄」の「耳」を代表する、行者道中に点在する堂宇の一つ。造立方法は謎だが、投入堂参拝前の儀式として参拝者は鐘を撞き、心を落ち着かせる場所として欠かせない。	
⑥	おくのいん 三仏寺奥院 なげいれどう (投入堂)	国宝 (有形)	「六根清浄」の「眼」の核となる建造物。建築方法は今も謎の断崖絶壁に建つ三徳山の象徴。信仰の象徴である蔵王権現像を配し、「六根清浄」が満願成就する最終到達地。	
⑦	三徳山火渡り神事	未指定 (民俗)	「六根清浄」の「意」にあたる、三仏寺の秋季法要。国宝投入堂参拝が叶わぬ者でも、火の上を素足で歩くことで祈りが届くとされている。	
⑧	精進料理と三徳豆腐	未指定 (民俗)	「六根清浄」の「舌」を代表するもの。山内で供される料理を食することで、参拝前に体の中を清らかにし参拝の始まりを予感させる。	
⑨	しょうぜんいんていえん 正善院庭園	県名勝	「六根清浄」の「眼・意」に該当する、県指定名勝の庭園。近世には鳥取藩主との関わりも深く、往時の姿を今に伝える庭園は、参拝者の意識を整える。	

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
⑩	小鹿溪	名勝 (記念物)	三徳山の南座と呼ばれ、裏行場の存在が示唆される。近年の調査で小鹿溪奇勝二十一景の一つ「冠巖」周辺で行場の跡が見つかるなど、三徳山のストーリーを補完する場所。	
⑪	みささ 三朝温泉	未指定 (記念物)	三徳山参詣の折に白狼によって示された以降、三徳山参詣の拠点地として参拝者の心身を清め、「観・聴・香・味・触・心＝六感治癒」のストーリーの核となる空間。	
⑫	三徳山参詣道沿いの石造物	未指定 (有形)	三徳山と温泉のストーリーを結合させるもの。三徳山への参詣道沿いにかつて道標・石仏・鳥居等住民が設置。地元の三徳山への信仰を裏付ける存在。	
⑬	株湯	町旧跡 (記念物)	「六感治癒」の「味」「香」を代表する三朝温泉発祥の地。株湯と同じく温泉街にある「河原風呂」は、三朝温泉の象徴であり、温泉から発する「湯の香」は三朝温泉から始まる三徳山参詣を予感させる。また「飲泉」は、体の中を清らかにすると言われ、医療効果としても利用されている。	
⑭	三朝のジンショ	重要無形民俗 (民俗)	「六感治癒」の「観」にあたり、三朝温泉を代表とする民俗行事で、霊場である三徳山周辺から切り出した藤カズラを使い、東西に分かれて引き合う勇壮な綱引き。藤カズラを用いる形態は特異で、人と自然が融合した独特なもの。	
⑮	さいとりさし	県無形民俗 (民俗)	「六感治癒」の「聴」「触」にあたる、三朝温泉に伝わる座敷芸。三徳山を舞台にした狂言風の踊りで三徳山との関係が民衆に浸透していたことを示す。	
⑯	みや 木屋旅館	国登録有形 (有形)	「六感治癒」の「触」「心」を代表する木造3階建ての旅館。大正期の温泉施設の原型を有しており、入浴以外の温泉利用として「オンドル」施設が残る、昭和の温泉文化を代表する建物。	
⑰	木造薬師如来坐像	未指定 (有形)	三徳山と温泉のストーリーを結合させるもの。三朝温泉街「薬師堂」の安置仏。「湯薬師さん」と呼ばれ、温泉街(参詣の起点)において三徳山を象徴する仏像。かつて三徳山から移された歴史をもつ。	

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ(※3)	文化財の所在地(※4)
⑱	みかさばし 三朝橋	国登録有形 (有形)	「六感治癒」の「聴」「心」にあたる。木橋を意識した昭和初期のコンクリート橋で、「河原風呂」とともに三朝温泉の象徴である。三朝川のせせらぎとカジカガエルの鳴き声は、参拝者の心を癒す。	
⑲	りょかんおおはし 旅館大橋	国登録有形 (有形)	「六感治癒」の「観」「心」を代表する木造3階建の旅館。眺望が楽しめるよう客室すべてが、三朝川沿いに配され、部屋ごとに床の間、天井、欄間等の意匠が異なる数寄屋風の造りで、昭和初期の建築技術の高さをみせる大規模な木造和風旅館。	
⑳	なんえんじ 南苑寺	国登録有形 (建造物)	「六感治癒」の「観」にあたる三朝温泉の寺院。竜宮城を思わせるユニークな伽藍景観を形成する山門や、見る角度によりその表情を変える鬼瓦は、参拝者の目を楽しませる。	
㉑	いざんろういわさきていえん 依山楼岩崎庭園	県名勝 (記念物)	「六感治癒」の「観・心」に該当する、県指定名勝の庭園。皇族用の離れや茅葺の茶室といった近代和風建築と立地を活かした庭園は、多くの文人が逗留し、作品を残している。	
㉒	栃餅	未指定 (民俗)	六根清浄の【舌】、六感治癒の【味】に該当する郷土料理。古くから縁起の良い食べものとして、三徳山での精進料理や山菜料理、三朝温泉旅館や飲食店で提供されている。	

- (※1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。
(※2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例:国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。
(※3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。
(※4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧

① 三徳山



④ 三仏寺文殊堂



② 三徳山行者道 (クサリ坂)



⑤ 三仏寺鐘楼堂



③ 三仏寺本堂



⑥ 三仏寺奥院 (投入堂)

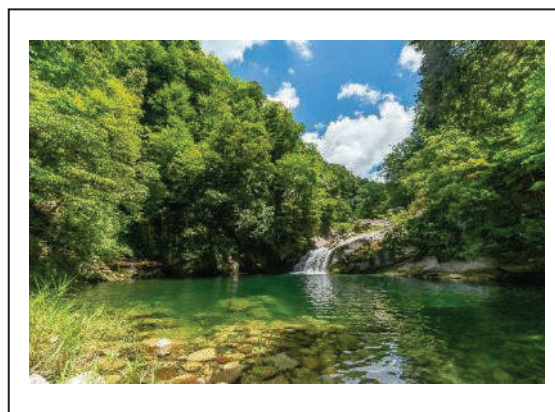


構成文化財の写真一覧

⑦ 三徳山火渡り神事



⑩ 小鹿溪



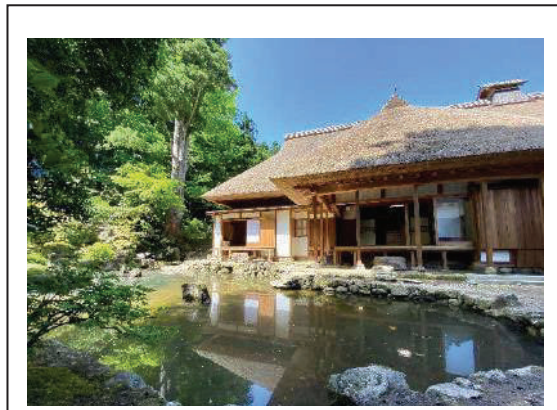
⑧ 精進料理と三徳豆腐



⑪ 三朝温泉



⑨ 正善院庭園



⑫ 三徳山参詣道沿いの道標 (石造物)



構成文化財の写真一覧

⑬ 株湯



⑯ 木屋旅館



⑭ 三朝のジンショ



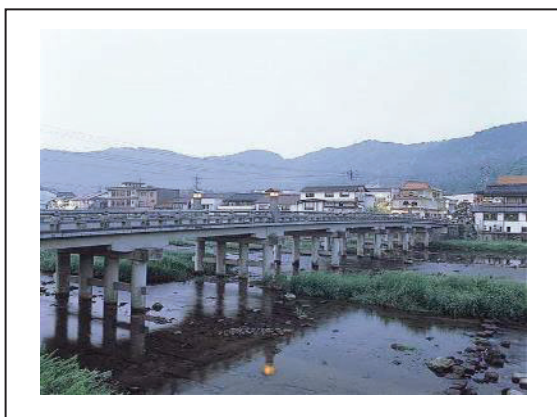
⑰ 木造薬師如来坐像



⑮ さいとりさし



⑱ 三朝橋



構成文化財の写真一覧

⑱ 旅館大橋



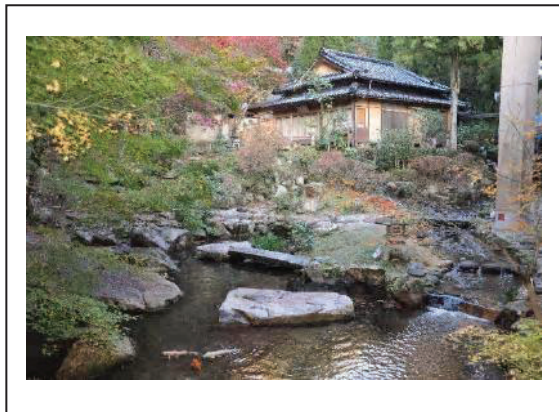
㉒ 未指定 栢餅



㉓ 南苑寺



㉔ 依山楼岩崎庭園



日本遺産を通じた地域活性化計画

認定番号	日本遺産のタイトル
012	六根清浄と六感治癒の地 ～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～

(1) 将来像 (ビジョン)

三朝町は、第11次総合計画における将来像として「笑顔と元気があふれ 輝く町」を掲げ、「まち」と「ひと」個性が交響する町づくりに取り組んでいる。そのなかで、町の主要産業である観光業では、地域資源の活用と新たな魅力の発掘・発信に努め、世界に通じる温泉の町として、多くの観光客に喜んでいただける町づくりを行うこととしており、その中心に日本遺産である三徳山と三朝温泉を位置づけている。日本遺産のストーリーを活かしながら、三徳山・三朝温泉の新たな魅力を磨き上げることによって、世界に通じる小さくてもキラリと光る「日本遺産の町」を目指す。

今後6年間で具体的に実現を目指す将来像は以下のとおり。

1 国内外から訪れる旅行者で賑わう町 ～受入環境整備のビジョン～

多様化する旅行者のニーズに寄り添った宿泊施設等受入環境の整備や、文化財の魅力を引き出す景観づくり、日本遺産を説明できるガイドの育成等受入サービスの充実、世界有数のラジウム含有量を誇るラドン泉の健康効果の解明に向けた研究によるエビデンス整備など、多方面からのアプローチにより旅行者の満足度と認知度を高め、日本遺産としてのブランド価値を一層向上させていく。また、三朝でしか体験できない温泉を活用したヘルスツーリズムや、山岳信仰・修験を活用したアドベンチャーツーリズムへの取組を一層進めるほか、日本政府観光局（JNTO）による海外への発信やデジタルマーケティングの手法をとり入れることで「六根清浄と六感治癒」が体験できる唯一の日本遺産の場所として「世界的に評価される世界水準の温泉リゾート地」を目指す。

2 地域資源の活用により経済が潤う町 ～高付加価値化への取組ビジョン～

日本遺産のストーリーを核としたオーダーメイドの日本文化体験など、三朝でしか経験できない高付加価値で特別な体験を提供することで、体験者の満足度を上げながら、国内外からリピーターの獲得と顧客単価の向上につなげていく。旅行者による賑いにより、三徳山や三朝温泉で営業する旅館や飲食店、その他地域内外の観光関係者がビジネスを発展することで、本町を中心とした経済波及効果の創出を目指す。

3 町民の活躍が町の持続化を後押しする交流と活気のある町

～SDGsの理念に基づく未来志向の活動ビジョン～

日本遺産の取組みを契機として、住民はSDGsの理念を共有し、貴重な地域資源を有する町への誇りと愛着心を持ち、魅力的な町づくりに精力的に取り組んでいる。国内外からの旅行者（三朝を愛するファン）の訪問を歓迎し、“おもてなし”の心で交流を深めるとともに、未来に向け世界に開かれた活気ある町づくりにより交流人口を増加させ、将来的に持続可能な文化・観光・経済の好循環を目指す。

(2) 地域活性化計画における目標

※各目標に対し、複数の指標を設定可

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-A：三徳山来山者数						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	86,957人	102,544人	110,903人			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	120,300人	129,700人	139,100人	148,500人	157,900人	167,200人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	ストーリーの核である「三徳山」に訪れた延べ人数。 2029年に三朝温泉入浴客数の40%を目標値として設定 ※三徳山参詣受付案内所受付数+山内ガイダンス施設利用者数					

目標①：地域住民や国内外からの来訪者が日本遺産のストーリーに触れ、その魅力を体験すること						
指標①-B：入浴客数（宿泊+日帰り）						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	236,106人	270,917人	323,363人			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	362,500人	402,000人	406,000人	410,000	414,000	418,000人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	ストーリーの核である「三朝温泉」で温泉を体験した人数。 コロナ直前の2019年数値を万博開催2025年目標値として設定し、以降は約1%ずつの増加を目標に設定。 ※日帰りには町内公衆浴場入浴者数を含む。					

目標②：地域において日本遺産のストーリーが誇りに思われること						
指標②－A：地域の文化に誇りを感じる児童生徒の割合						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	69%	85%	86%			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	90%	90%	90%	90%	90%	90%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>「地域の文化に誇りを感じるか」という趣旨の設問に対し肯定的な回答を行った町内小中学生の割合。</p> <p>進級により対象者が変わる中でも毎年90%以上を目指す。</p> <p>※小学4年生から中学3年生の児童生徒にアンケートを実施。</p>					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－A：地域ガイドの利用料収入						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	751,200円	475,700円	733,500円			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	850,000円	1,000,000円	1,150,000円	1,300,000円	1,450,000円	1,600,000円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	<p>日本遺産ガイド、三徳山境内ガイド、木屋旅館三徳山ガイド、その他三徳山有償ガイドの総額。</p> <p>各実施主体の目標値等を合計し、端数調整により目標を設定。</p>					

目標③：日本遺産を活用した事業により、経済効果が生じること						
指標③－B：宿泊施設における売上高						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	2,886,622 千円	3,830,427 千円	4,751,834 千円			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	4,940,000 千円	5,135,000 千円	5,160,000 千円	5,185,000 千円	5,210,000 千円	5,235,000 千円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	三朝温泉旅館組合員の年間売上高。 大阪・関西万博が開催される2025年に、2014年から2024年まで10年間の最高売上高5,135,000千円を目標とする。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：日本遺産の構成文化財が活用可能な状態にある割合						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	100%	100%	100%			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	100%	100%	100%	100%	100%	100%
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	現在活用できない状態の文化財はなく、計画的に修理等を行うことでこれを維持する。					

目標④：日本遺産のストーリー・構成文化財の持続的な保存・活用が行われること						
指標④－A：ふるさと納税の寄付額						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	36,343 千円	38,830 千円	56,906 千円			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	66,200 千円	75,500 千円	84,800 千円	94,100 千円	103,400 千円	112,500 千円
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	寄付額のうち「三朝温泉及び町の振興に関する事業」に対する額。 町が掲げる寄付目標(150,000千円)の75%を目標として設定。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－A：三朝温泉への観光客数						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	323,063人	373,461人	434,266人			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	493,000人	552,000人	557,500人	563,000人	568,500人	574,000人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	大阪・関西万博が開催される2025年にコロナ禍前である2019年の552,000人に戻すことを目標として設定し、以降は1%ずつの増加を目標に設定。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－B：三朝温泉への外国人観光客数						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	32人	405人	7,388人			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	13,000人	20,000人	21,000人	22,000人	23,000人	24,000人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	大阪・関西万博が開催される2025年に、コロナ禍前である2019年の20,000人を目標とし、以降5%の増加を目指す。					

目標⑤：地域への経済効果も含め広く波及効果が生じること						
指標⑤－C：三朝温泉への宿泊者数						
年度	実績					
	2021	2022	2023			
数値	188,702人	232,308人	271,132人			
年度	目標					
	2024	2025	2026	2027	2028	2029
数値	293,000人	314,000人	317,000人	320,000	323,000人	326,000人
指標・目標値の設定の考え方及び把握方法	大阪・関西万博が開催される2025年にコロナ禍前である2019年の314,000人に戻すことを目標として設定し、以降は1%ずつの増加を目標に設定。					

(3) 地域活性化のための取組の概要

ビジョン1：受入環境の整備

① ガイドコンテンツの充実と体制の強化

【現状と課題】構成団体と連携することで、三徳山住職による三徳山境内ガイドツアーの造成や、三朝温泉入浴アドバイザー“ラヂムリエ”の育成、サブストーリーの造成などを進めてきた。これらを継続的に活用し更に磨き上げながら、誘客や滞在時間、満足度の向上につなげる必要がある。

【対策と取組】日本遺産への学びと体験を組み合わせたアドベンチャーツーリズムや、現代湯治を活かしたヘルスツーリズムなど、日本遺産事業を構成団体が幅広く展開するなかで、様々な機会を通じてガイドツアーの催行や、ラヂムリエが活躍する場の増加を図る。また、研修会など三徳山やラドン泉に係る調査・研究成果を学ぶ機会を提供し、継続的なスキルアップを図ることで、地域の魅力をより深く持続的に提供できる体制を構築する。

② 文化財の保存と活用に係る施設整備

【現状と課題】現在、活用できない状態の構成文化財はないが、今後経年劣化の避けられない建物など、適切な修理によってこれを維持していく必要がある。また、国宝投入堂の展望施設やトイレ改修なども進めているが、現地解説の整備を充実させ、より快適な周遊環境を目指した整備を進める必要がある。

【対策と取組】構成文化財を未来に向けて保存・活用するため、構成文化財の解説ツールとして、解説板の他に QR コードや音声ガイドといった手法も検討し、整備を進め活用を図る。特に多言語解説の整備に際しては、文化庁が示す『文化財の多言語化ハンドブック』や『文化財の多言語解説案内版の制作指針』等を参考に、景観への配慮も検討し適地に適切な手法で整備を進める。また、事業期間内に「文化財保存活用地域計画」の作成を目指すとともに策定中の「(仮称)温泉街まちづくり計画」に併せ、効率的にガイダンス施設など公共施設の整備や改修、高機能化の取組みを進める。

③ 顧客満足度（マーケティング）調査に基づく事業展開

【現状と課題】これまで実施してきたデジタルマーケティング調査によって、旅行者のニーズの把握と満足度の向上に努めてきたが、より詳細な分析や構成団体との情報共有スピードに課題があった。

【対策と取組】調査結果の分析を専門業者等に委託しすることでその精度の向上を図り、分析結果は構成団体と共有するデータベースに保存、掲載するなど、速やかに共有する。これにより、各構成団体がスピード感をもった改善が可能な環境、体制を整える。

ビジョン2：日本遺産の高付加価値化

① ストーリーを体験するプランの提供（体験プログラムの充実）

【現状と課題】三朝温泉入浴アドバイザーのラヂムリエや三徳山境内ガイドといった体験メニューのほか、新たな地産品開発により、県や関係団体が展開する高付加価値化の取り組みを充実させてきたが、各プログラムをつなげ、日本遺産のストーリーをより深く体感できるメニューが今なお不足している。

【対策と取組】本町の日本遺産のキーワード「六根清浄」と「六感治癒」の「六根」「六感」と

は、視覚、聴覚等の五感に「心」を加えた6要素のことで、この6要素に訴える体験プランを増やし、観光振興に関連する【宿泊】・【食】・【特産】・【体験】・【人材】といった分野と連携することで滞在時間の拡大や連泊プランの推進を図り、受益が地域経済にいきわたる好循環サイクルを構築する。

② 海外観光客の誘致と地域振興

【現状と課題】海外観光客は、コロナ過により2021年度は全盛期の約0.2%まで落ち込み、2023年度も約40%の見込みである。東アジアへのチャーター便の就航再開や、鳥取県による「地方における高付加価値なインバウンド観光地モデル事業」の実施及び展開などの機を捉え、インバウンド誘客に向けた取り組みを進めていく必要がある。

【対策と取組】チャーター便の就航再開や定期便の新規就航を活かした誘客セールスなどを行うとともに、県が取り組む「高付加価値なインバウンド観光地づくりモデル事業」で設定するコアバリュー「THE EDGE TOTTORI」に沿った訴求層の獲得を目指す。また、モデル事業の展開と併せて、日本遺産体験プランを組み込んだ「着地型観光商品」を提案することで誘客強化を図る。

③ 広域連携による観光事業のマッチング

【現状と課題】鳥取県内はもとより岡山県蒜山地域を含む広域連携や、県内4つの日本遺産による「とっとり日本遺産ネットワーク」の設置、「修験」をテーマにした県外日本遺産認定地域との商品造成などを行っており、誘客力の強化につなげていく必要がある。

【対策と取組】関係団体との連携を一層強化し、県外プロモーションやSNS等を活用した個人旅行者への情報発信を積極的に進めるとともに、三朝温泉が宿泊拠点（ハブ）となることで大都市圏から周辺地域への誘客力の底上げを図る。また、日本遺産で「温泉」等をテーマにした地域との連携を模索する。

ビジョン3：持続可能な町

① 組織整備と財源の確保

【現状と課題】実施主体である三朝町日本遺産活用推進協議会は、行政からの業務委託費や補助金を主な財源とし、構成団体は自主財源等で事業を推進している。実施主体の事業方針や達成目標、成果を共有するとともに、構成団体それぞれが、確実に日本遺産事業の財源を確保し、事業を展開する必要がある。

【対策と取組】協議会を中心に構成団体や県内外の関係団体と連携を深め、機動性のある意思決定のプロセスやPDCAサイクルを推進する。協議会は各種補助事業等を積極的に取り入れるとともに、町は三朝町ふるさと応援寄附金などにより事業費を安定的に確保する。また、日本遺産商品やコンテンツの拡充、クラウドファンディングの実施等を支援することで、構成団体や民間事業者による財源の確保を促す。

② 地域民間プレーヤーの発掘と育成

【現状と課題】少子高齢化が進むと同時に地域の担い手が減少している。日本遺産を通じて地域の魅力を再認識し、町内外からプレーヤーを発掘、育成を継続することで、この課題を解決する必要がある。

【対策と取組】町内小中学校が行う「ふるさとキャリア教育」や、町民向け生涯学習教室

「三朝大学」、近隣大学が行う地域学習など、町内外の教育機関と連携した日本遺産学習を推進し、地元企業や学生組織が協力する三徳山の保護保全活動、「三朝のジンショ」など構成文化財の保存・継承に向けた外部人材の活用などを継続することで関係者の輪を広げ、地域で活躍するプレイヤーの発掘と育成を図る。

(4) 実施体制

日本遺産の活用促進に向けた推進体制



【実施主体】三朝町日本遺産活用推進協議会（事業の総合調整）

日本遺産地域プロデューサー：沖田 雅浩（三朝温泉旅館協同組合理事長）	
日本遺産三徳山三朝温泉を活かす会（事務局：観光交流課）	
広域観光の推進	（一社）鳥取中部観光推進機構（地域連携DMO） （一社）山陰インバウンド機構（広域連携DMO）、（公社）鳥取県観光連盟
インバウンド誘客	インバウンドコーディネーター（三朝町国際交流員）
三朝温泉事業	三朝温泉観光協会、三朝温泉旅館協同組合 三朝町商工会、NPO 法人みささ温泉、現代湯治推進協議会
三徳山事業	三佛寺、三徳山麓会（寺坊・飲食店）
日本遺産三徳山三朝温泉を守る会（事務局：社会教育課）	
調査保護普及啓発	三徳山三佛寺、輪光院、正善院、皆成院、三朝温泉旅館協同組合、三朝町商工会、文化財保護調査委員会、三朝区陣所保存会、三朝温泉観光協会、鳥取県日仏友好協会、地域協議会、倉吉ユネスコ協会、鳥取県ヘリテージマネージャー、(株)山陰合同銀行

三朝町日本遺産活用推進チーム（地域振興監、観光交流課、社会教育課、企画健康課）

【人材育成・確保の方針】

三徳山やラドン泉に関する調査研究成果を、講演会や研修会を通して現代湯治推進協議会が認定する三朝温泉入浴アドバイザー「ラヂムリエ」や、三朝温泉観光協会が行う「日本遺産ガイド」、三徳山の住職ら関係者と共有することで人材育成を図る。

また、町が地域を知る学習として進める小中一貫カリキュラムの「ふるさとキャリア教育」や、町民を対象とした生涯学習教室「三朝大学」、鳥取大学や鳥取短期大学など近隣大学が行う地域学習など町内外の教育機関と連携した日本遺産学習の推進と併せて、地元企業の協賛や学生組織の協力の下に実施している三徳山の保護保全活動を継続することで関係者の輪を広げ、地域で活躍するプレイヤーの発掘と育成、確保につなげる。

(5) 日本遺産の取組を行う組織の自立・自走

【三朝町ならではの自立・自走】

現在、実施主体である三朝町日本遺産活用推進協議会自体は、主に行政からの補助金により運営している。補助金の財源にはふるさと納税の一部を充当することで、一定規模の事業を迅速かつ継続的に実施できている体制を構築しており、返礼品の拡充や自動販売機によるふるさと納税システムを導入するなど、財源の確保、充実を進めている。このため、短中期的には本体制を維持することで日本遺産事業を推進する。

また、長期的には、日本遺産事業を推進し、推進協議会の構成団体が財政的に潤うことで、観光インフラ等施設整備、商品開発・販売、プロモーション戦略等行政を含めた構成団体間で財政的な負担を含めた役割分担を行うなど、三朝町ならではの地に足の着いた自立・自走の形を目指す。

【日本遺産コンテンツの高付加価値化】

一方、これまでも行ってきた一般会員の獲得を進めることで、事業費の確保のみならず地域プレーヤーの充実に繋げる。また、県内の各DMOや鳥取県観光連盟と連携し、東アジアへの定期便やチャーター便の就航再開を活かした誘客セールスや情報発信、鳥取県が取り組む「高付加価値なインバウンド観光地づくりモデル事業」によって、インバウンド誘客に向けた取り組み強化を図り、併せて、山陰インバウンド機構との連携事業で造成した三徳山住職による三徳山境内ガイドツアー、三徳山での「茶会」・「精進料理」や三朝バイオリン美術館での「聴く音泉」など、高付加価値な体験コンテンツの造成、多言語案内・解説の充実を一層図っていく。以上の方策により、将来的な構成団体の財政健全化を目指す。

(6) 構成文化財の保存と活用の好循環の創出に向けた取組

「三朝町総合計画」や「名勝及び史跡三徳山・名勝小鹿溪保存活用計画」など、各種計画に基づき保存と活用に向けた取組みを次の通り実施する。

1 日本遺産の体験学習や地域を巻き込んだイベントの実施

体験学習やイベントなど、地域内で行う日本遺産の普及啓発事業は、地域の子どもたちや住民が地域の文化・歴史に対する理解ならびに、環境の保全に向けた気持ちの芽生えにつながっている。郷土への誇りと愛着心の醸成が進み、構成文化財の適切な管理（清掃や保全活動など）や地域ぐるみの活発な活動も広がっており、未来に向けて保存・伝承活動に取り組む人材の確保、育成がさらに進むよう官民協働で活動にあたる。

2 日本遺産の魅力発信と高付加価値化の推進

広く日本遺産の魅力を発信することで国内外からの誘客を促進し、併せて町内を含む域内の高付加価値化を更に進めることで、サービスや品質、満足度の向上を図る。構成団体を中心に、日本遺産を活かした広域観光への取り組みが、町内のみならず周辺地域経済の発展につながることで、日本遺産が地域の活性化に有効な観光コンテンツであることを地域住民や関係者が強く再認識し、さらなる自発的な活用と保全活動につなげる。

3 文化財の保存と活用に向けた財源の確保

ふるさと納税や三徳山三朝温泉を守る会等の会費、クラウドファンディングなどによって財源を確保し、日本遺産を活用した町の振興に係る事業を通じて、構成文化財の保存と活用に取り組む。

(7) 地域活性化のために行う事業

(7) - 1 組織整備

(事業番号 1 - A)

事業名	日本遺産活用推進体制の充実事業		
概要	実施主体となる三朝町日本遺産活用推進協議会は、下部組織に「日本遺産を守る会」と「日本遺産を活かす会」を配置し、各会で実施される日本遺産事業の総合調整及び、対外的な事業連携を行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	「三朝町日本遺産活用推進協議会」活動	「守る会」「活かす会」による役割を明確化し、とっとり日本遺産ネットワーク会議への参画やこれによる県内連携、共通テーマによる他県認定地域との連携など、広域的に事業展開を図る。	三朝町日本遺産活用推進協議会
②	「日本遺産三徳山三朝温泉を守る会」活動	「文化財保存部会」「普及啓発部会」「環境美化部会」による住民等参加活動の充実を図るとともに、教育部局と連携することで、主に地域住民を中心とした文化財の保護保全、普及啓発などを実施し、文化財保護意識の醸成を図る。	三朝町日本遺産活用推進協議会
③	「日本遺産三徳山三朝温泉を活かす会」活動	地域内観光団体やDMOを中心に、広域連携や新商品等の開発と充実、SNS等インターネットによる情報発信などにより、誘客促進を図るとともに、ガイド人材や地域プレーヤー等の育成、発掘を行うことで観光振興を図る。	三朝町日本遺産活用推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	・ 行政組織以外の参画団体及び連携地域の数		推進協 11、活かす会 10、 守る会 19
2022			推進協 11、活かす会 10、 守る会 19 連携認定地域 7
2023			推進協 11、活かす会 10、 守る会（再編）13、 連携認定地域 7
2024			推進協 11、活かす会 10、 守る会 13 連携認定地域 10
2025			
2026			
2027			
2028			
2029			

事業費	22024年：8,984千円 2025年：8,984千円 2026年：8,984千円
継続に向けた事業設計	三朝町日本遺産活用推進協議会を中心として、構成団体や県内外の関係団体と連携を深める。協議の場を計画的に設けることで、それぞれが進める日本遺産事業の実施状況を適切に把握、共有し、本計画に沿った事業展開を図る。事業の進捗に応じて適宜有識者に助言を求め、これを事業に反映させることで、より効果的な事業実施につなげる。
事業費	2027年度：8,984千円 2028年度：8,984千円 2029年度：8,984千円
継続に向けた事業設計	上記2026年までの方針を基本に、構成団体が自主事業として行う日本遺産事業を一層推進する。

(事業番号1-B)

事業名	財源の確保		
概要	日本遺産推進体制を維持、充実に必要な財源を確保するために必要な取り組みを行う。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	役場推進チーム活動	県や国の他、大学や専門家から助言を得ながら、「三朝町日本遺産活用推進協議会」の取り組みを支援する。ふるさと納税額の拡充を図ることで財源を確保し、活用可能な補助事業や民間事業者の自走に向けた事業支援等の検討を行う。	三朝町
②	補助事業等の実施	一定規模以上の事業を実施するため、日本遺産関連補助事業の活用や、日本遺産関連事業を受託する。	三朝町日本遺産活用推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	<ul style="list-style-type: none"> 日本遺産事業資金の獲得事業数 (ふるさと納税、クラウドファンディング、各種補助金、事業受託数など) 		4件
2022			1件
2023			5件
2024			5件
2025			5件
2026			5件
2027			5件
2028			5件
2029			5件
事業費	2024年度：75,014千円 2025年度：75,014千円 2026年度：75,014千円		
継続に向けた事業設計	行政との連携により、各種補助金を活用した事業実施のほか、行政が行う整備事業など、それぞれの団体がもつ事業予算の中で日本遺産事業を幅広く展開できる体制を構築している。町が行う日本遺産関連事業の財源には、ふるさと納税を充当し、財源の確保、充実を進めていることか		

	ら、短中期的には本体制を維持し日本遺産事業の推進を行う。
事業費	2024 年度 : 75,014 千円 2025 年度 : 75,014 千円 2026 年度 : 75,014 千円
継続に向けた 事業設計	上記 2026 年までの方針を基本に、長期的には、高付加価値な体験コンテンツの造成、充実など、構成団体が自主事業として行う日本遺産事業を推進し、構成団体間で財政的な負担を含めた役割を担うなど、三朝町ならではの日本遺産の推進体制を目指す。

(7) - 2 戦略立案

(事業番号 2 - A)

事業名	計画の策定と実践事業		
概要	本地域活性化計画の策定をはじめ、三朝町総合計画など長期構想への日本遺産事業の組み込みや、文化財保存活用地域計画の策定を進め、それらに関係者と共有することで、計画的に日本遺産事業を推進する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	三朝町日本遺産活用推進協議会（活かす会・守る会）の開催	定期的な会議の開催により、構成団体等との連携を深めるとともに、各団体の日本遺産関連事業の進捗や効果を共有する。連携協議や事業調整を行うほか、必要に応じて事業の見直すことで、効果的かつ円滑な事業実施を図る。	三朝町日本遺産活用推進協議会
②	マーケティング調査による観光客動向の把握と事業への反映	デジタルマーケティング調査等の取組みを進め、来訪者や地域住民から情報を必要な収集する。DMO等と連携することでこれを分析し、協議会を通じて関係者と共有することで、より効果的な観光推進につなげる。	三朝町日本遺産活用推進協議会
③	行政計画に基づく各種事業の推進及び管理	第11次三朝町総合計画や第2期まち・ひと・しごと創成総合戦略など既存計画のほか、事業期内に作成を目指す文化財保存活用地域計画において、日本遺産事業を明文化することで、行政が定める長期構想の中で日本遺産を推進する。	三朝町
④	とっとり日本遺産ネットワーク会議への参画	鳥取県が主導するネットワーク会議に参画することで、県内全体で日本遺産の発展を目指すとともに、県が取り組む「高付加価値なインバウンド観光地づくりモデル事業」との連携を図る。	三朝町日本遺産活用推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本遺産事業を組み込んだ行政計画の数 ・ 会議の開催回数 		計画 9 本、会議 5 回
2022			計画 10 本、会議 6 回
2023			計画 12 本、会議 6 回
2024			計画 14 本、会議 6 回
2025			計画 14 本、会議 6 回
2026			計画 15 本、会議 6 回
2027			計画 15 本、会議 6 回
2028			計画 15 本、会議 6 回
2029			計画 15 本、会議 6 回
事業費			2024 年度 8,984 千円 2025 年 : 8,984 千円 2026 年 : 8,984 千円
継続に向けた事業設計	行政が策定する各種長期構想に日本遺産事業を組み込むことで、補助金等財政支援の継続や、より快適な観光整備を計画的に進める。また、マーケティング調査の結果等を広く構成団体と共有し、PDCA サイクルをまわすことで、官民が一丸となって日本遺産事業を進める。		

事業費	2027年度：8,984千円 2028年度：8,984千円 2029年度：8,984千円
継続に向けた事業設計	上記2026年までの方針を基本に、各種計画の見直しや、新たに作成される計画に日本遺産事業を組み込んでいくことで、事業をより幅広く展開する。

(7) - 3 人材育成

(事業番号3-A)

事業名	地域プレイヤーの育成・発掘事業		
概要	地域でこれからの観光産業や文化財保護を担う人づくりに取り組む。観光事業者や民間団体、教育機関や専門家など幅広く連携し、日本遺産による観光の町三朝町の持続的発展の基礎を固める。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	地域プロデューサー等との連携	地域の活性化と地域経済への波及効果を高めるため、地域プロデューサーの助言をもとに、日本遺産事業の効果的な推進を図る。	三朝町日本遺産活用推進協議会
②	三朝温泉入浴アドバイザー“ラヂムリエ”の養成	現代湯治推進協議会や岡山大学等研究機と連携し、研修会や実践を通じて“ラヂムリエ”の育成、増員を図り、三朝町の日本遺産から温泉文化や入浴方法を国内外へ発信する。	現代湯治推進協議会
③	ガイドの養成	日本遺産ガイドや三徳山境内ガイドと参加者アンケートの結果等を共有するとともに、今後、他の日本遺産認定地ガイドの視察や交流によって、スキルアップにつなげる。	三朝町日本遺産活用推進協議会
④	文化財守り人の発掘と養成	守る会会員や教育機関等と連携し、大学生や児童生徒の文化財保護活動や民俗文化財への巻き込みや、調査研究に基づく勉強会や講演会の実施を通じて、これらの継承に必要な人材を発掘、育成する。	三朝町日本遺産活用推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	・地域人材による観光ガイドの数 ※退職等による人材の入れ替わりがあるため、毎年100人以上の状態を維持するとともに、研修や試験によってスキルアップを図る。		80人
2022			87人
2023			124人
2024			100人以上
2025			100人以上
2026			100人以上
2027			100人以上
2028			100人以上
2029			100人以上
事業費	2024年度：6,525千円 2025年度：6,525千円 2026年度：7,525千円		
継続に向けた事業設計	既設の地域プロデューサーやラヂムリエ、ガイド等を育成するための研修会等を引き続き実施することで、継続的なスキルアップを図るとともに、三朝町が進める“ふるさとキャリア教育”や近隣大学が行う地域学習などとの連携を通じ、次世代の担い手を発掘、育成する。		
事業費	2027年度：6,525千円 2028年度：6,525千円 2029年度：7,525千円		

継続に向けた
事業設計

上記 2026 年までの方針を基本に、ガイドの育成状況や民俗文化財の実施状況を踏まえ、必要に応じて事業の見直しを行う。

(7) - 4 整備

(事業番号4-A)

事業名	三徳山と三朝温泉を核とした観光基盤の整備事業		
概要	日本遺産のストーリーを体験し、構成文化財を快適に周遊するための拠点施設の整備や案内機能のほか、サブストーリーの充実・強化を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	文化財の保存と活用に係る施設整備	構成文化財の適切な保存修理及び防災防犯対策等を行うことで、活用可能な状態を堅持するとともに、現在策定中の「温泉を活用した健康まちづくり事業」の計画に併せ、効率的にガイダンス施設(ビジターセンター)やトイレなど公共施設の整備や改修のほか、補助事業を活用した施設の高付加価値化を進める。併せて、デジタルデータを活用しながら、ストーリーや文化財の価値・解説をより分かりやすく魅力的に多言語で提供する仕組み作りを進める。	構成文化財所有者 施設管理者 三朝町
②	快適な周遊環境の整備	鳥取県が進めるサイクルツーリズムとの連携を図りつつ、電動自転車の整備による移動手段を充実させるとともに、モデルコースの設定やチェアリングの推進などによって滞在時間を増やす。また、町内外の協力者とともに美化活動を行い、官民一体となって快適な周遊環境を作る。	三朝町日本遺産活用推進協議会
③	サブストーリーの抽出と観光商品への反映	文化財所有者や文化財部局と連携して、歴史的な情報を整理し、観光に活かせるサブストーリーを作成することで、商品造成に活かす。	三朝町日本遺産活用推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	・滞在の総合満足度 (「やや満足」以上の割合)		89%
2022			93.2%
2023			97%
2024			90%以上
2025			90%以上
2026			90%以上
2027			90%以上
2028			90%以上
2029			90%以上
事業費			2024年度：68,796千円 2025年度：68,796千円 2026年度：68,796千円
継続に向けた事業設計	名勝及び史跡三徳山・名勝小鹿溪保存活用計画や、小鹿溪・三徳山周辺資源活用計画など、行政が策定する各種長期構想に日本遺産事業を組み込むとともに、各種補助事業等も活用しながら、より快適な周遊環境の		

	整備を計画的かつ継続的に進める。また、文化財所有者や有識者のほか、国際交流員など外国人協力者とも連携し、初めてこの地を訪問する外国人に分かりやすく伝えることを念頭に、魅力的なサブストーリーの造成や解説の多言語化を進める。
事業費	2027年度：68,796千円 2028年度：68,796千円 2029年度：68,796千円
継続に向けた事業設計	上記2026年までの方針を基本に、各種計画の見直し等を踏まえて整備を進める。

(7) - 5 観光事業化

(事業番号5-A)

事業名	日本遺産ストーリーの体感コンテンツ等開発事業		
概要	五感と心に直接訴えかけられる体験型の日本遺産である強みを行かし、収益性や訴求するターゲットを検討し、旅行商品の企画造成や販売等を行うことで、経済の好循環につなげる。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	日本遺産関連商品の企画・開発	ふるさと納税での返礼品に対応できる商品や、手に取ってもらえる商品の企画、開発のほか、「癒し・健康・自然・美容」といった「気持ちいい」の提供や、学び・冒険・食文化など「旅の醍醐味」を感じる仕掛けと組み合わせた旅行商品の造成を、構成団体と連携して進める。また、所有者を中心に、国宝指定120周年の節目に併せた高付加価値な体験プランの造成を目指す。	三朝町日本遺産活用推進協議会
②	ガイドツアーの販売	三徳山の住職が直接境内を案内する「三徳山境内ガイドツアー」や三朝温泉街で行う「日本遺産ガイド」を三朝温泉観光協会が販売窓口となり、OTAへの掲載等によって販売する。	三朝温泉観光協会
③	連泊の推進	日本遺産のストーリーは、「入浴→参拝→入浴」の体験を柱に「五感+心」の6要素から成り立っているため、この6要素に訴える企画開発を進め、【宿泊】・【食】・【特産】・【体験】・【人材】といった分野と連携し、連泊プランの推進に日本遺産関係者全体で引き続き取り組む。	三朝温泉旅館協同組合
④	インバウンド誘客の促進	東アジアへのチャーター便の就航再開を活かした誘客セールスや情報発信、鳥取県が取り組む「高付加価値なインバウンド観光地づくりモデル事業」による訴求層への旅行商品造成を図る。	三朝町日本遺産活用推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	・三朝温泉旅館の年間売上高		2,886,622千円
2022			3,830,427千円
2023			4,751,834千円
2024			4,835,000千円
2025			5,180,000千円
2026			5,230,000千円
2027			5,255,000千円
2028			5,280,000千円
2029			5,305,000千円
事業費			2024年度：41,494千円 2025年度：41,494千円 2026年度：41,494千円

継続に向けた 事業設計	高付加価値化や連泊・インバウンド関連の旅行商品の造成をすすめ、地域経済を活性化させることで、構成団体による自主財源の確保や補助金等の獲得につなげ、事業の継続を図る。
事業費	2027 年度：41,494 千円 2028 年度：41,494 千円 2029 年度：41,494 千円
継続に向けた 事業設計	2025 年度の万博終了後の動向を注視しつつ、デジタルマーケティング調査などの結果を踏まえた観光戦略により、確実な誘客を図る。

(7) - 6 普及啓発

(事業番号6-A)

事業名	日本遺産「六根清浄と六感治癒の地」普及啓発事業		
概要	地域内外において日本遺産の認知・関心を高め、地域に対する誇りと愛着心を育てるとともに、関係人口の創出を図る。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	教育機関及び行政との連携	近隣大学や専門学校、三朝町、鳥取県による温泉等地域資源を活用した健康増進プラン研究事業への取組と、必要な施設整備を図ることで、日本遺産の魅力アップにつなげる。また、近隣大学生の無形民俗行事への参加や、町内小・中学生の日本遺産学習等を通じて、日本遺産への理解と地元文化を誇りに思う心の醸成を図る。	三朝町
②	「日本遺産コーナー」の拡充（町報・パネル展）	町報に日本遺産コーナーを設け、定期発信するとともに、施設・行事等でパネル展示による日本遺産の紹介を行い理解の深まりにつなげる。	三朝町
③	普及啓発イベント等の実施	4月24日の認定日関連イベントとして実施している「三朝町日本遺産ウィーク」や、「日本遺産フェスティバル」や「とっとり日本遺産フォーラム」への参加、町民向け生涯学習教室「三朝大学」や「三徳学講座」など、様々な機会を通じて日本遺産の普及啓発を行う。	三朝町日本遺産活用推進協議会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	<ul style="list-style-type: none"> 出前学習等を体験した者の数 地元の文化に誇りを感じる児童・生徒の割合 		277人 / 69%
2022			865人 / 85%
2023			1,014人 / 86%
2024			1,000人以上 / 90%以上
2025			1,000人以上 / 90%以上
2026			1,000人以上 / 90%以上
2027			1,000人以上 / 90%以上
2028			1,000人以上 / 90%以上
2029			1,000人以上 / 90%以上
事業費	2024年度：5,328千円 2025年度：5,328千円 2026年度：5,328千円		
継続に向けた事業設計	協議会事務局である三朝町観光交流課や、三朝町教育委員会事務局の社会教育課が窓口となって構成団体や、教育機関との連携を深め、それぞれの事業計画に日本遺産事業を組み込むことで事業の継続を図る。		
事業費	2027年度：5,328千円 2028年度：5,328千円 2029年度：5,328千円		
継続に向けた事業設計	上記2026年までの方針を基本に、コミュニティスクール制度などの動向を踏まえ、各機関との連携の充実を図る。		

(7) - 7 情報編集・発信

(事業番号7-A)

事業名	日本遺産「六根清浄と六感治癒の地」情報発信事業		
概要	日本遺産に関する情報とともに、来訪者に必要となる基本的な情報について整理し、HP や SNS 等、各種イベントを通じて情報を発信する。		
	取組名	取組内容	実施主体
①	情報媒体のデジタル化	誘客・PR 活動の拡大展開や多言語対応など、タイムリーな情報提供の実現に向けて、DMO 等と連携して情報媒体のデジタル化を進める。	三朝町日本遺産活用推進協議会
②	三朝温泉観光素材の作成	「今だけ、ここだけ、あなただけ」を意識した三徳山や三朝温泉の素材を作成するとともに、各種情報媒体による露出を増やす。	三朝温泉観光協会
③	公式HP及び日本遺産ポータルサイトの充実	協議会や構成団体のHP等による、多言語化(英語・仏語・韓国語・繁体字・簡体字)に対応した丁寧な広報や、連携地域との相互発信等の継続により日本遺産の周知を図る。	三朝町日本遺産活用推進協議会
④	SNS での情報発信	三朝温泉観光協会が中心となり、多言語による情報発信を SNS 等で継続することで、海外を含めて日本遺産の認知向上につなげる。併せて研修等を通じて情報発信スキルの向上を図る。	三朝温泉観光協会
年度	事業評価指標		実績値・目標値
2021	・三朝町の日本遺産を発信する情報発信媒体の数 ※構成団体と連携し、情報発信媒体数を維持しつつ、情報共有や研修等を通じて情報発信スキルを向上させることで、インプレッション数の向上を図る。		19 媒体
2022			20 媒体
2023			21 媒体
2024			21 媒体
2025			21 媒体
2026			21 媒体
2027			21 媒体
2028			21 媒体
2029			21 媒体
事業費	2024 年度：32,905 千円 2025 年度：32,905 千円 2026 年度：32,905 千円		
継続に向けた事業設計	DMO など構成団体がそれぞれ管理運営する HP や SNS、新聞やテレビなどで情報を発信するほか、国際交流員や外国語指導助手、体験学習に訪れる大学生や留学生、三朝温泉観光大使やとっとり diary インフルエンサー、連携地域など、関係する様々なチャンネルを最大限活かすことで多角的な情報発信を継続する。		
事業費	2027 年度：32,905 千円 2028 年度：32,905 千円 2029 年度：32,905 千円		

継続に向けた
事業設計

上記 2026 年までの方針を基本に、各媒体等のインプレッション数を注視しつつ、研修等を通じて、より効果的な発信方法を検討する。